

萬福寺だより

第20号

馬込から気持ちのよい風が吹いてくる

発行／曹洞宗 萬福寺護持会

2014年冬号／no.20／平成26年12月1日発行

HP <http://www.manpukuji.or.jp>

「世界遺産『中尊寺』拝観と東北応援の旅」を終えて



1日目に訪れた「奇蹟の一本松」（陸前高田市）



一本松の説明を聞く参加者



山の土を市街地に運ぶベルトコンベア。右側に盛り土の一部が見える

萬福寺護持会は、このほど37名が参加して世界遺産・中尊寺拝観と被災地応援を目的とした研修旅行（1泊2日）を開催しました。これまで護持会では、東日本大震災の支援活動をいろいろ行ってきましたが、早く現地の様子を知りたいとの思いもあり、今回3年半がたつてようやく実現したものです。

10月7日の早朝、東京駅に集合した一行は東北新幹線で岩手県一ノ関駅へ。ここで観光バスに乗り換え、最初の訪問地、世界遺産の天台宗東北大本山中

尊寺を訪問、金色堂はじめ国宝・重要文化財を拝観しました。台風一過の晴空のもと、中尊寺境内を、バスガイドさんが語る奥州藤原氏の悲劇の歴史を聞きながら散策、「月見坂」を下って中

尊寺を後にしました。
平泉で昼食後、次に向かったのが陸前高田市の「奇跡の一本松」です。一帯の陸中海岸国立公園には約7万本の松林がありましたが、津波によってなぎ倒され、唯一奇跡的に残った陸前高

田市の松を「奇跡の一本松」と呼び、尊寺を後にしました。
震災で昼食後、次に向かったのが陸前高田市の「奇跡の一本松」です。一帯の陸中海岸国立公園には約7万本の松林がありましたが、津波によってなぎ倒され、唯一奇跡的に残った陸前高

田市の松を「奇跡の一本松」と呼び、復興のシンボルとなりました。しかし、震災から1年後、塩害によって根が腐り、枯死と判断されました。そのため全国から寄せられた「保存募金」を使って松に人工的な処理を加えてモニュメントとして復活したものです。津波で破壊されたユースホステルとともに、「奇跡の一本松」から目を旧市街地に向けると、山を切り崩した土を運ぶ巨大的なベルトコンベアーが張りめぐらされ、ながら近未来の都市建設のような風景が広がっていました。防災対策として市街地全体をかさ上げする作業が進められ、一部では最大12mの高さに土が盛られていました。その高さを目の前にして「完成にはまだ時間がかかりそう」との声がもれてきました。

視察を終えて夕闇せまる南三陸町に入り、午後5時すぎに宿泊先の「南三陸ホテル観洋」に到着、温泉で一同ひ

「復興への道まだ遠し」を実感

せいたかあわだちそう
背高泡立草とススキの茂る旧市街地を前に



2日目は松巣寺永井住職様から被災の様子を伺う。右奥の棚に見えるのは現在も身元の分からないご遺骨（石巻市）

感謝を込めてご先祖様、御本尊様にお参りしましょう。

12月14日・沐浴式、31日・除夜の鐘、正月1~3日・大般若会にお出かけください。

年明け2月11日(祝)は心安らぐ写経会へ——納経式も同時開催

萬福寺の公式ホームページをご覧ください。

馬込萬福寺

検索

<http://www.manpukuji.or.jp>

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。



芋煮会

INFORMATION

仏事のご案内

ご家族皆様で参加しましょう

12.14 午前11時から

本尊阿弥陀如来三尊仏の沐浴式・御開帳

※御本尊様の御開帳があります。

12.31 午後11時から法要

除夜の鐘つき

1.1-1.3 午前11時から

正月大般若会御祈禱諷経

※御本尊様の御開帳があります。

2.11 午後1時から3時

写経会

2.15 午前11時から

涅槃会法要

五百回忌	四十七回忌	四十三回忌	三十七回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	九回忌	一周忌
昭和四十年	昭和四十四年	昭和四十八年	昭和五十四年	昭和五十六年	昭和五十八年	平成元年	平成五年	平成十一年	平成十五年	平成二十六年
大正五年	昭和四十一年	昭和四十五年	昭和四十九年	昭和五十三年	昭和五十七年	昭和六十一年	昭和六十五年	昭和七十一年	昭和七十五年	昭和八十年
五百回忌	四十七回忌	四十三回忌	三十七回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	九回忌	一周忌

平成27年 年回表

御葬儀・法要の連絡は
萬福寺本堂総受付まで

法要は「追善法要」ともいい、故人が浄土で安樂であるようにと願いを込めて行うものです。年忌法要は葬儀とは違い予定が立てられます。できれば半年前、少なくとも3ヶ月前には準備を始めましょう。

御葬儀・法要のお問い合わせ・お申し込み

萬福寺本堂総受付 **03-3771-2025**

※梶原殿の会場使用につきましては、他社の葬儀社も利用できます。

← 講話「終活セミナー」を拝聴
お 彼岸の中日、9月23日午後1時から講話「終活セミナー」、午後2時から彼岸会法要が、本堂に多くの参詣者出席のもと営まれました。

終活セミナーでは、JA東京中央セレモニーセンター代表取締役社長・丹野浩成氏が冊子『エンディングノート』をもとに講演、「遺産の配分はもちろん、その理由、本当に家族に残したい心の遺産を事前にノートに書き残しておくことが肝要」とのお話がありました。

この日、法要に先立つて本堂前では「芋煮会」が行われました。これは萬福寺護持会女性役員が中心となって、以前萬福寺に奉職し現在山形にお住まいのご僧侶に訪れた参詣者に振る舞われ、ご好評をいただきました。来年も企画する予定です。

平成26年9月23日(火祝)

秋彼岸会法要

← 講話「終活セミナー」を拝聴
子 供を巻き込ん

→ 子供を守る誓い新たに
子 供を巻き込ん

平成26年10月28日(火)

鬼子母神祈願法要



子母神祈願法要が10月28日に執り行われました。法要には当山の寺宝・鬼子母神尊像の御帰山（昭和の一時期行方不明。昭和62年に戻ってきた）に貢献された静岡県の岸本家の方と、この鬼子母神尊像は日蓮聖人が一泊のお礼として萬福寺に寄贈されたものとい伝えられているございました。法要後、安本利正ご住職様から「日蓮聖人の萬福寺御宿泊の事」について法話があり、参詣者全員に御札と鬼子母神尊像カードが授与されました。

法要後、大田区社会福祉協議会に寄付されました。閉式後は「チビ玉姉弟ショウ」が行われ、愛らしい姉弟の歌・舞踊に一同大喝采となりました。



魂

のこもるといわれる人形やぬいぐるみ、処分に迷う故人の遺品などを6500体お預かりし、萬福寺・安本利正ご住職様の丁重なご法要のもとでお別れする「人形・想い出品供養祭」が10月5日、萬福寺・梶原殿ホールで行われました。

平成26年10月5日(日)

人形・想い出品供養祭

地域行事として定着へ
人 形・想い出品供養祭

編集後記

平泉から東に向かった萬福寺研修旅行の私たちを、青空と太平洋につながる静かな海が迎えてくれました。岩手県陸前高田も宮城県南三陸町も、美しい入り江の風景は昔のままで、陸地側の海岸に沿った町並みはわずかな土台の痕跡ばかりで、人びとの暮らしを思わせるものは消え失せていました。

大震災と津波について、被災された方々は淡淡とお話し下さいましたが、被害のさまを間近に見ながら聞く言葉の一つ一つに重いものが込められていたと思います。

震災からやがて4年目になりますが、被災した地域の復興作業はやっと始まつばかり。私たちにいったい何ができるのかを考えさせられた今回の研修旅行でした。あらためて、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。